

<週報No. 2,955> 3,067 回例会

2021年11月5日(金)

■会長／北川 和彦 ■幹事／飯田 兼光

◆司会＝川村総一郎 SAA 代行

◆ゲストビジター＝本日はいらっしゃいません

◆出席報告

本日	100.00%	0名欠席
前回訂正	100.00%	0名欠席

◆ラッキーナンバー＝No.25 小平直史君

◆ニコニコボックス＝●北川和彦君、飯田兼光君＝本日の例会担当ロータリー財団委員会・河西委員長よりよろしくお願い致します。

●川村総一郎君、合田敦子君＝11/14のロータリーアクトとの合同例会美食会 Part II、加藤会員よりよろしくお願い致します。

●小平直史君＝ラッキーナンバーに当たって。

◆会長告知・北川和彦会長＝おはようございます。

前回例会は、桑澤一郎ガバナーにお出でいただき、主にRI(国際ロータリー)の組織の変更の問題をお話頂きました。

パソコンが上手く作動せずに十分にお話頂けなかったことは残念ですが、どう意見をまとめるかについては、事前の会長幹事との懇談で示唆を頂きましたので参考に致します。

本件について本日の理事会で未来形成(SRF)検討委員会の設置を決めて委員会で検討した結果をお知らせし、当クラブとしての意見をお諮り頂きたいと思っています。

RIから提案されている内容ですが、資料として地区の関邦別研修リーダーのパワーポイントがありますが、そのまま配布しても分かりにくいので、さわりを述べます。

RIに2018年7月「未来形成委員会」が設置され、その存在と審議内容は3年以上未公表でしたが、昨年12月に公表されました。その内容は、

①「地区」制度を廃止し、「地域」制度と「セクション」制度を設ける。

②日本にある34の「地区」は廃止され、それに代わり1つの「地域」が設けられ、その中に102の「セクション」が置かれる。

③「地域」には、それを統括する「地域カウンスル」1名、「セクション」には「セクションリーダー」各1名が置かれる。日本には1名の地域カウンスルが置かれ、地区ガバナー(34名)に代わり、セクションリーダー(102名)が置かれる。ガバナーの負担は小さくなり、ガバナーのなり手が増え、適任者が得られやすくなる。ただし、ガバナーという名称は残される可能性もある。

④この組織の変更は、2022年の規定審議会(RIの立法機関)で承認されると、一定期間パイロット地域で試験的な運用がなされ、2030年頃に全世界に導入される予定。

◆幹事報告・飯田兼光幹事＝先週の例会は、ガバナー公式訪問で、多くの会員にご参加頂きました。有難うございました。桑澤ガバナーより公式訪問の礼状が届いておりますので、回

覧させていただきます。

2600地区青少年育成基金プロジェクト助成金のご案内を回覧させていただきます。

11/9(火)18:30から歴代会長会及び指名委員会を行います。会場は鷺乃湯さんです。お間違いの無いようお願い致します。

次回の例会は11/14日(日)ですが、バスハイクが中止となり、ぬのはんさんでロータリーアクト合同美食会を行います。

加藤社長にて素晴らしい催しをご用意頂いており、お料理の内容もかなり豪華となっておりますので、多くのメンバーに参加頂き、久しぶりに皆さんで楽しみましょう！

11月のロータリーレートは114円となります。

例会終了後に理事会を開催致しますのでお集まり下さい。

◆委員会報告

●親睦・クラブ親善委員会 合田敦子委員長

11/14はロータリーアクトとの合同例会美食会 Part2 開催を予定しております。開始時間は19時からで会場はぬのはんです。駐車場が少ないので車でいらっしゃる方は乗り合わせでお越し頂くようご協力をお願い致します。

加藤会員、美味しいお料理を楽しみにしておりますので、宜しくお願い致します。

●クラブフォーラム・ロータリー財団 河西正一委員長

ロータリー財団につき私なりに理解していることをお話しさせていただきます。説明に誤りがあるかもしれませんが、聞けば聞くほど分からなくなることもあると思いますが、宜しくお願い致します。

これがロータリー財団をネットで調べた最初のページです。各自で直接見て頂くのが一番よいと思います。(ご参考：

<https://www.rotary.org/ja/about-rotary/rotary-foundation>)

最初に記載されているのが「ロータリー財団は皆様からの寄付で世界各地の奉仕活動に役立てています」ということ。

100年以上前に設立され、これまで総額40億ドル・4000億円以上の資金を提供してきました。

次のページでは何に使われているのかの説明です。ポリオプラス、ロータリー平和フェロシップ、大規模プログラム補助金、その他に補助金があり、地区補助金・グローバル補助金・災害救援補助金、最後にロータリー学友と記載されています。地区のマニュアルでは少し異なる表現となっており、ポリオプラス、地区補助金、グローバル補助金、ロータリー平和センターの4つですと記載されていますが、全体と地区との纏め方が異なるのだと思います。ポリオプラスはポリオに対する資金で1988年には125カ国35万件以上の発症が確認されておりましたが、約30億人の子供にワクチン接種することで発症数は99.9%減少との成果。

最近の寄付額は1.5億ドル・約150億円です。ビル・ゲイツが結構な額の寄付を行っているとのことで調べてみると、ロータリー財団が50億円出してビル・ゲイツが100億円出している様です。

次にロータリー平和フェロシップは奨学金です。平和の為に奨学金ということで世界に7つロータリー平和センターがあり、その中に指定された大学があります。日本では国際基督



教大学が指定されており、博士・修士号を取得する学生に奨学金を提供しているそうです。

大規模プログラム補助金は、年間で2億円以上の補助をする大規模なプログラムに対して出す補助金です。

最も私達に関係しているのが補助金、地区補助金とグローバル補助金です。

最後に学友のロータリー奨学金、交換留学生等があると思います。

続きまして、今のプログラムには地区補助金とグローバル補助金があります。地区補助金は一括で地区に払われて地元や海外のニーズに取り組む為に使用できる補助金です。65周年の際に財団から補助を受けたのはこの地区補助金になるのではないかと思います。

グローバル補助金は大規模なもので、目的としては平和構築と紛争予防、疾病予防と治療、水と衛生、母子の健康、基本的教育と識字率向上、地域社会の経済発展、環境の7つで財団の使命に沿っていることを支援することと記載されています。

他国との2クラブ以上の共同プロジェクトが対象となりますので、日本だけではなく海外との共同プロジェクトであり、長期にわたるもので単年度の使用は不可とのこと。予算は3万ドル・300万円以上の様です。

財団の支出は年間3.6億ドル・約362億円です。最も支出が多いのがポリオプラスで1.5億ドルです。詳しい説明書はありませんが、恐らくこれには先ほどのビル・ゲイツの分が含まれた数字だと思います。次に多いのがグローバル補助金で9500万ドル、一番私達に関連してくる地区補助金は3300万ドルです。

一方で財団の資金は、寄付金は年次基金・災害基金・恒久基金とその他から構成されています。年次基金は地区に集まった額の47.5%がWF（国際財団活動式）、47.5%がDDF（地区財団活動資金）、5%が管理運営費に振り分けられます。

財団の年次寄付の地区への還元の仕組みは寄付と恒久基金は3年後に使用することとなり、この3年間で十分な時間をかけてプログラムの計画や参加者の選考を行うこととなります。

補助金の仕組みを分かり易く50%で説明します。年次プログラム基金の内50%が（WF）国際活動基金にいき、50%がDDF（地区財団活動資金）となり、そこから半分がグローバル資金へ拠出され、残りの半分が地区補助金となります。結果としてグローバル補助金が非常に多いものとなります。

当クラブとして使えるのは25%となるのですが、大切なのは3年前に皆さんがいくら拠出されたかということになります。私個人としては財団に寄付をしなければ100%自ら使うことができるのですが、寄付というものはそのようなものではなく如何に有効に使うかということが重要と考えます。自由に使える額を増やすのであればより多くの寄付をしなければなりません、寄付した金額に対しどの程度の割合が諏訪に残るのかも考える必要があると思いました。

次の資料では財団にどの位の寄付金が集まっているか確認していきます。2019-2020では財団が360億円、財団の協力団体となる日本ロータリー財団が20億円です。日本ロータリー財団として自ら奨学金も出しておりますが、結果としては日本で集められた寄付金の大半がロータリー財団の資金となります。

他にも2600地区での寄付金は4200万円、諏訪ロータリークラブでは91万円となっております。

日本の中では他にロータリー米山記念奨学金が個別の寄付金としてあります。全国では13億円、2600地区で2830万円、諏訪ロータリーでは61万円となっています。

ここで諏訪ロータリークラブの2021-2022の計画表を見てみます。ロータリー財団への寄付が21万円、ポリオプラスには15万円（会員47名×30ドル）、ロータリー平和センター寄付金が2万円（同×500円）、誕生月寄付51万円（同×100ドル）、合計約77万円となります。これらに皆さんの個別の寄付が追加されます。

上記に加えて米山記念奨学会普通寄付42万円（同×9,000円）があります。

最後に寄付を重ねると累積1,000ドル以上で「ポール・ハリス・フェロー」、最初の1,000ドルの後に累積した1,000ドル毎に「マルチプル・ポール・ハリス・フェロー」として認定されます。認定の際には寄付額のレベルに相当する宝石のついた襟ピンの贈呈も行われ寄付の証となります。

以上がロータリー財団についての説明となります。今年度は65周年ですので寄付が増えると思います。寄付先はロータリー財団か米山記念奨学会となりますが、寄付先として自分でどちらが合っているのか考えながら寄付を宜しくお願い致します。

◆今後の例会日程

11月5日	金	3067回例会
11月14日	日	3068回夜間例会
11月19日	金	準法定休日